# 図書館通信

2021.4.1 発行（No.60）
香川短期大学附属図書館

## そうだ！図書館に行こう！

萌ゆる春、新入生も在学生も新生活のスタートです。大学の学びに欠かせない図書館では、様々なメディアで皆さんをサポートします。多くの情報があふれる私たちの日常、必要で確かな情報を入手するためのコツを、図書館を活用しながらゲットしていきましょう！

『フェイクニュースがあふれる世界に生きる君たちへ』
森達也
ミツイパブリッシング
361.453/MO

『マンガでわかる大学生のためのレポート・論文術』
小笠原喜康著
講談社
816.5/OG

## 2021 年　4月　開館予定表

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |

…休館日　…閉館日（館内整理日・学内行事日等）　…開館日

開館時間…９：００～１７：００　臨時の休館・時間変更等は HP 等でお知らせします。
附属図書館オリジナル Web　香川短大ＨＰ→附属図書館→附属図書館オリジナルＷｅｂ
http://lib.kjc.ac.jp/csp/carin/hp/CARhpTOP.csp

## 寄稿文

学長　加野芳正

### 「大学図書館の変容」

私にとって大学図書館といえば、本を探す、本を借りる、本を読む、そうした空間であった。試験の前など、自学自習する場所でもあった。大学に入学して図書館に行くと、高校の図書室とは桁違いに本も多く、そこで勉強していると「ああ、大学生になったんだな」と感慨に浸ることができた。その図書館は「静かにする」「本は黙読する」というマナーが支配する空間であった。おしゃべりしていると、注意されないまでもイヤな顔をされる。

江戸時代を背景とした時代劇を見ていると、時として藩校を舞台として武士の学習場面が描かれる。論語などを学ぶ場面が出てくると大抵は「子のたまわく・・・」と「音読」である。声を出して、文字を読み進めていく。ところが、明治時代になって活字印刷が普及し、より大量の活字を消化することが求められるようになると、素読を始めとする音読文化は廃れていき、個人的な「黙読文化」が主流になる。これは前田愛『近代読者の成立』（岩波書店）に書かれていることである。歴史的に見ると、黙って本を読むことは当たり前でも何でもなかった。黙読文化が主流になるにつれて、「静かに本を読む」という図書館での作法が形成されていった。

ところが今日、大学図書館が大きく変わりつつある。これはアクティブ・ラーニングに代表されるように学習の形態が変わってきたからである。これまでの受動的な学習から主体的で能動的なものへと転換するにつれて双方向・多方向での質疑応答、グループ討論などの主体的学習に資する図書館が求められるようになってきた。そうした学習が成立するためには、他者とのコミュニケーションが成立する空間が必要となる。もちろん、一人で勉強する空間が不必要になるわけではないが、共同作業や意見交換のできる空間が求められる。

時代の変化につれて学習の仕方が変わり、それに伴って図書館の役割も変わる。声を出してもかまわない空間の確保が、今日の大学図書館に求められていると思う。